

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 17 年 11 月 4 日 (2005.11.4)

【公開番号】特開 2003-179963 (P2003-179963A)
 【公開日】平成 15 年 6 月 27 日 (2003.6.27)
 【出願番号】特願 2002-268212 (P2002-268212)
 【国際特許分類第 7 版】

H 0 4 Q 7/34

H 0 4 Q 7/22

H 0 4 Q 7/28

【 F I 】

H 0 4 Q 7/04 C

H 0 4 Q 7/04 K

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 9 月 16 日 (2005.9.16)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 0 4 】

ところが、データ呼がアクティブである間は、M S 1 1 8 は第 1 の作用中の M S C 1 1 0 に登録を行わない。図 1 に点線で示されているとおり、アンカー M S C 1 0 6 は第 1 の作用中の M S C 1 1 0 の N o . 7 共通線信号方式 (S S 7) アドレス及び第 1 の作用中の M S C 1 1 0 に音声呼を伝達するためのベアラパスを有していない可能性がある。(S S 7 アドレスとは、他のネットワーク要素にシグナリングメッセージを送信するために M S C によって用いられるアドレスのことである。)従って、M S 1 1 8 は、B S C 1 1 2 及び B T S 1 1 3 を経由して第 1 の作用中の M S C 1 1 0 と通信することができず、音声呼を受信できない。さらに別の H H O が第二の作用中の M S C 1 1 4 に対して発生するとこの問題は継続する。前述の場合と同様に、アンカー M S C 1 0 6 は第二の作用中の M S C 1 1 4 の S S 7 アドレス、並びに B S C 1 1 6 及び B T S 1 1 7 を経由して第二の作用中の M S C 1 1 4 に音声呼を伝達するためのベアラパスを有していない可能性がある。現在、非特許文献 1 (以下 A N S I - 4 1 と呼ぶ) の第 5 条 6 項に、移動体着信音声呼の伝達事例の大半において前述の問題を克服できるメッセージングが規定されている。しかし、このメッセージングは複雑で、全ての M S C に適用できない可能性がある。A N S I - 4 1 の写しはワールドウェブサイトの www.tiaonline.org から直接取得できるほか、米国通信工業会 (Telecommunications Industry Association, 1300 Pennsylvania Ave., Suite 350, Washington, D.C. 20004 USA) に問い合わせることで入手できる。

【非特許文献 1】T I A / E I A (米国電気通信工業会 / 米国電子工業会) による規格「セルラー式無線通信システム間オペレーション (Cellular Radiotelecommunications Intersystem Operation) (ANSI/TIA/EIA-41-D) 、 1 9 9 7 年 1 2 月、ワールドウェブサイト <<http://www.tiaonline.org>>